

安心できる介護・納得できる介護保険・信頼できる制度の実現

**NPO法人 きょうと介護保険にかかわる会**

発行人 梶 宏

事務所 〒604-8811 京都市中京区壬生賀陽御所町 3-20 賀陽コーポラス 809

TEL・FAX:075-821-0688 E-mail:npokakawarukai@helen.ocn.ne.jp

<https://npokaigo.or.jp/>

会員88名でスタート！

**2022年度通常総会 3年ぶりに対面開催**

副理事長 中川 慶子



**通**常総会はさる5月21日午前10時からひと・まち交流館京都で開催された。3年ぶりの対面総会である。最初に梶理事長の挨拶。「一昨年は20周年を記念する総会であったがコロナ禍で中止となり、続いて昨年も中止、今年度何とか開会できてよかったと思っています。今年度もがんばっていきましょう。

今の世の中、戦争はないと思っていたがウクライナで起こった。また、コロナウイルスが世界を席卷した。不安を感じる社会である。私たちが生きていくうえで何よりも大切なものは人とのつながりである。隣人を大切に、そしてNPO活動も然り、総会で皆様に会えてうれしく思っています」。

次いで議長に山田裕子さんを選出。出席者27名、委任状43名、合計70名、会員数88名、1/2以上の会員の出席で総会が成立していることを確認。

正木理事が議事次第に従って第1号議案から第5号議案を説明、いずれの提案もそれぞれ採択・承認された。

昨年度の事業報告のうち、研修会等開催事業では2021・2022年度事業である京都市地域包括支援センター実態調査関係が重きを占めた。第三者評価事業では、コロナ禍で出入り禁止の介護事業所が続出するなど大変な1年となった。受診申し込みは20件

あったが、事業所の協力のもと14件の調査訪問ができたのは成果といえる。広報関係では、会報は年間を通して8ページ建てで発行され、HPと共に内容は豊富で充実した1年であった。

今年度の研修会は新会員が増えたことに対応して、研修内容は専門性を高めつつ基本的なことも取り上げていくことが確認された。また会員一人ひとりが新しい会員を誘い合うなどの会員増強案が提案された。

会場からは、4月の野外研修会（京都府相楽郡特養わらく）のバスツアーは大変楽しかったが、会員相互の交流を深める工夫がもっとほしかったとの意見や、今回初めて参加の新会員からこの会は「敷居が高く入会しにくい」「チラシの配架などにもっと工夫すべき」という建設的な意見等が活発に出された。

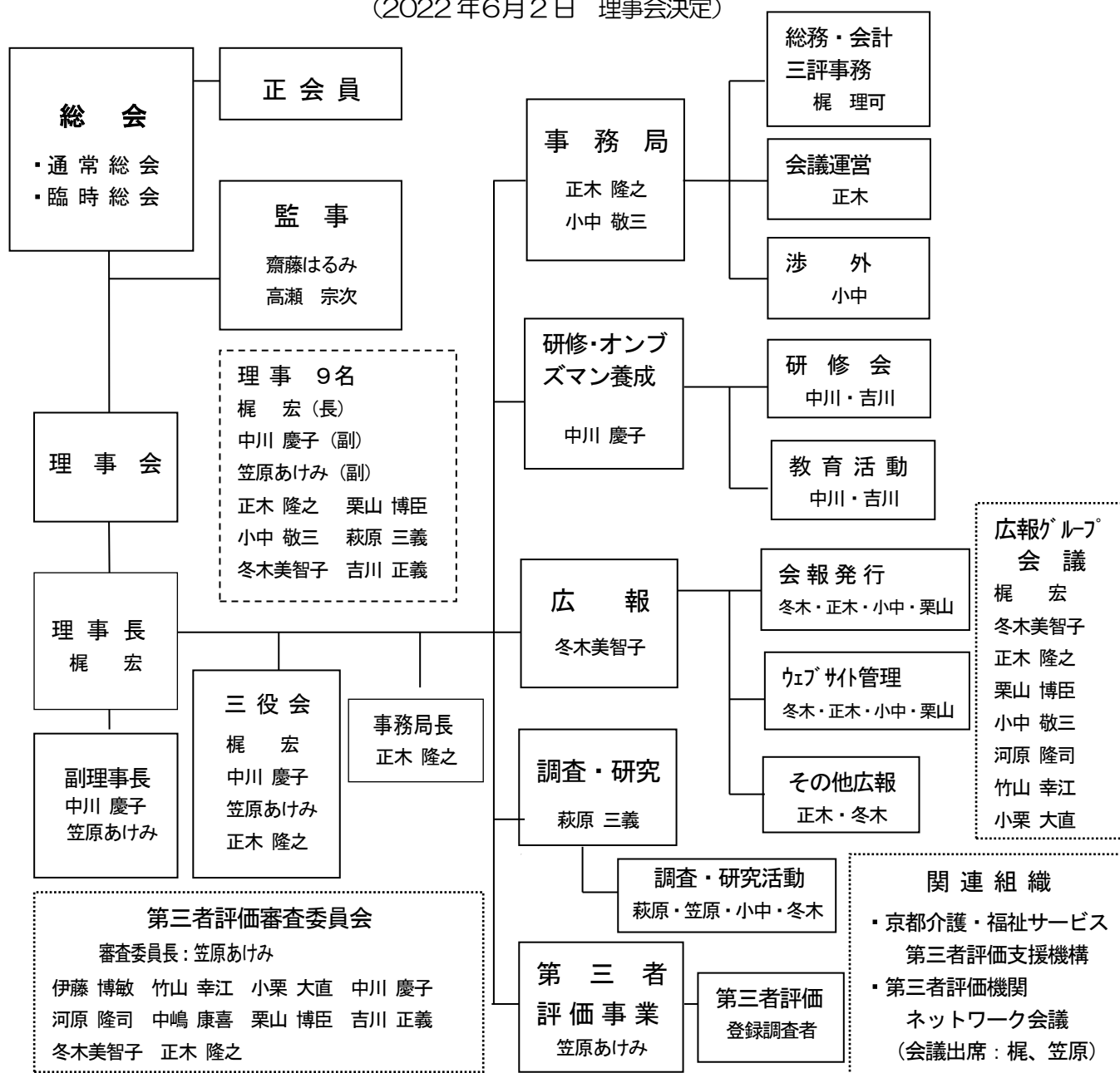
最後に事務局長小栗大直さんから体調不良のため辞任の挨拶があり、会から花束と記念品が贈られた。山田議長から長年にわたり会の発展に尽くされたことへの感謝の言葉が述べられた。最後に副理事長中川が挨拶し閉会となった。

**目次**

2022年度通常総会 3年ぶりに対面開催	1
かかわる会組織・業務担当 事務局長退任・就任挨拶	2
地域包括支援センター実態調査活動報告No.5	3
京都でケアラー支援条例をつくろう！	4
シリーズ「私の介護体験」6／ときどき横浜だより	5
4月研修会報告「特養わらく見学と周辺観光」	6・7
6月研修会案内／7月研修会案内	7
会員リレーえっせい 58／新入会員紹介／会員募集／編集後記	8

## きょうと介護保険にかかわる会 組織・業務担当図

(2022年6月2日 理事会決定)



### 理事・事務局長退任挨拶

小栗大直

昨年12月に体調不良を来し手術が必要と診断されました。病気そのものは命にかかわるような大病ではなかったのですが、手術まで1か月余り待機を余儀なくされ、その間に患部の内臓癒着を起こしたことも重なり都合3か月ほど日常生活を制限されました。今まで大病を患ったこと無く健康自慢ただけにショックは大きかったです。加えて10年以上前から脳委縮の診断を受けていたのですが、最近特に思考力の低下が激しくなっていました。

このような状態に鑑み任期途中ではありましたが、理事及び事務局長の辞任を梶理事長にお許し頂いた次第です。幸い事務局長は正木理事にお引き受け頂くことができ、喜んでおります。また退任後も一会員として体力・気力の続く限り会の活動に参加させていただきます。長い間大変お世話になりました。

### 事務局長就任挨拶

正木隆之

目配り、気配りの行き届いた小栗事務局長からバトンを受けて、力不足を自覚しているだけに少したじろいでいますが、どうせ引き受けるのであれば、何か新しい風のひとそよぎくらいは吹かせてみたいと思っています。

とはいえ、事務局の仕事とは会員の皆さんや理事会の意向を受けて、それを形にしていくことです。風がなければ風鈴も鳴りません。

ですので皆さん、新しい風をどんどん送ってくださいね。

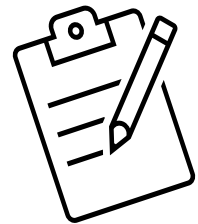
## 地域包括支援センター実態調査活動報告 No.5

当会の昨年度総会で新規事業として承認され、スタートした地域包括支援センター実態調査。いよいよ2年目を迎えました。

1月に京都市の地域包括支援センター61カ所にお送りしたアンケート調査票は、最終的に41カ所から回答があり、その中で聞き取り調査にもご協力頂けることになった21カ所に、プロジェクトメンバーが手分けして、4月から5月初めにかけて伺いました。

当会が地域包括支援センター調査を実施するのは2回目。1回目は2012年に実施しましたが、その時から大きく変わったのが介護予防・日常生活支援総合事業の実施や地域包括ケアシステムの推進です。地域ケア会議をはじめ地域ネットワークの要として取り組まれている内容、その成果や課題について、また京都市や福祉事務所に望むこと、困っておられることについても率直なご意見を聞かせて頂きました。

ただでさえご多忙の中、協力してくださったセンター長の皆さまに厚く御礼申し上げます。頂戴した情報、ご意見をまとめ7月研修会で中間発表を行い、9月には報告書としてまとめていく予定です。



### 調査者の感想

#### 訪問の醍醐味

(板井幸子 会員)

とにかくお忙しいようで、伺った2カ所とも30分の面談でしたが、貴重なお時間をいただいたというのが第一印象です。

共通の課題として、行政との足並みが揃わないこと。特に総合事業についてはビジョンが伝わってこない、事業の受け皿がない、試行錯誤の状態が進展がない、ある意味現場に丸投げといった状態に苛立ちを持たれているように思いました。

そのような中で、アピールできることについてお聞きすると、パッと表情が明るくなり、資料を持ち出して、生き生きと活動内容を語って下さいました。地域包括支援センターの業務をもっと知ってほしいという思いが伝わってきました。これぞ、訪問の醍醐味でした。



#### 低すぎる対価の改善を！

(元廣敦子 会員)

予想していた以上にご多忙なセンター長に対応して頂きましたが、質問にはしっかりと正確に答えて下さいました。そのセンター長をスタッフの皆さんが信頼し、真剣に働いておられることが事務所の様子から伝わってきました。センター長は「スタッフが、一生懸命すぎてオーバーワークになりそうなところを燃え尽きないようにしっかり注意している」とおっしゃって、それにホッとしました。センター長のお仕事としては人材確保、育成が重要課題になっていることが分かりました。

「総合事業など新しい名称の事業が次々できて複雑すぎる。京都市には“行政だから出来ること”をしっかり行ってほしい」「職員の対価が低すぎる現状を何とか改善して頂きたい」というお言葉に感銘を受けました。ぜひ実現してほしいと願っています。



実態調査中間発表会 7月16日(土)13:30～ 詳細は7ページをご覧ください





# 京都でケアラー支援条例をつくろう！

京都ケアラーネット共同代表  
男性介護者と支援の全国ネットワーク事務局長  
**津止正敏**

介護していても、自分自身の人生も生きられる社会をつくろう。認知症や障害、難病、ひきこもりの人と暮らす、京都の当事者団体(ケアラー組織)のリーダー16名を共同代表とするネットワークが、この京都で立ち上がった。「ケアラー支援条例をつくろう！ネットワーク京都(京都ケアラーネット)」だ。きょうと介護保険にかかわる会の梶理事長、中川副理事長も共同代表に名を連ねている。

## ◆5月22日にキックオフイベント

そのキックオフイベントが5月22日にキャンパスプラザ京都で開催された。会場参加者が40名あまり、オンライン参加の申し込み者は70名を超えた。市会・府会からも3党派5名の議員が多忙の合間を縫って、私たちの訴えに足を運んで耳を傾けた。基調講演は、この分野で最初に火をつけ全国に広げた「日本ケアラー連盟」の代表理事、堀越栄子さん。条例化の意義を、

- ① ケアラーの存在を社会的に認識した
- ② ケアラーが健康で文化的な生活を営む主体者であることを明文化した
- ③ ケアラー支援に公的根拠を与えたと指摘した。

## ◆全国で拡がる支援条例のうねり

既に条例を制定する自治体は、埼玉県(20年3月施行)をはじめ北海道栗山町(21年4月)、三重県名張市(21年6月)、岡山県総社市(21年9月)、茨城県(21年12月)、岡山県備前市(21年12月)、北海道浦河町(21年12月)、栃木県那須町(22年3月)、北海道(22年4月)の9自治体に上る(4月現在)。京都府も「京都府ヤングケアラー総合支援センター」を今年4月開設した。全国各地に拡散しようとしている支援条例といううねりは、あたかも1960年に岩手県の小さな自治体「沢内村」で始まり、ついには政府

が掲げた「福祉元年(1973年)」の支柱ともなった老人医療費無料化の創出を彷彿させるものとなっている。国に先駆け、国を先導する機能をも地方自治体は有しているのだ。

## ◆市民主導の条例制定運動を京都から

長い間、社会の含み資産とみなされ、ケアを担うことが当然視されてきたケアラーが社会的支援の舞台へと上ろうとしている。

「全てのケアラーが健康で文化的な生活を営むことができる社会を実現する」—これは埼玉県ケアラー支援条例がその第1条に謳う目的だが、私たちの思いを代弁するような文言だ。私たち京都からの発信は、「本格的な市民主導での条例制定運動が始まった」(堀越栄子さん)というその策定のプロセスとスタイルに特段の意味がある。

全国的にも注目を集めることは必須だが、その期待にしっかり応えきるような社会運動・ケアラー運動として展開していこうと決意している。

介護保険にかかわる会の諸兄姉にも特段のお力添えを頂きたいと切に願っている。

介護する人  
**こんな人がケアラーです**

ケアラーとは、こころやからだに不調のある人の「介護」「看病」「療育」「世話」「気づかい」など、ケアの必要な家族や近親者、友人、知人などを無償でケアする人のことです。

障害をもつ子どもを育てている

健康不安を抱えながら高齢者が高齢者をケアしている

仕事と介護でせいじっぱいではかに何もできない

仕事を辞めてひとりで親の介護をしている

遠くにひとりで住む高齢の親が心配で頻りに通っている

目を離せない家族の見守りなどのケアをしている

アルコール・薬物依存やひきこもりなどの家族をケアしている

障害や病気の家族の世話や介護をいつも気にかけている



発足イベントのQRコード

## 第6回

### シリーズ「私の介護体験」

## 寿命とは

会員 高松 真弓

夫はシニアサッカーグループに入り70歳までねんりんピックに出場、72歳までボールを蹴り、ゴルフに行き、元気者でした。

毎年受けていたドックで、ステージⅠの肺がんが見つかり手術成功。しかし3年後に副腎への転移が分かり、抗がん剤投与、痛み止めの薬を服用。突然、医師より緩和病院を探すように言われ、治療放棄されたようでショックでした。しかし介護保険を使うのを嫌がっていた夫に医師が勧めてくれて、要介護Ⅰということになりました。そのおかげで診療所の医師による訪問診療を半年間受けることが出来ました。

足先の血流が循環せず、カテーテル治療。家の上、下の部屋に酸素の機械を設置。家じゅうを鼻からの管を引っ張って歩いたり、カートにポンペを装着して通院したり、救急車

の要請と、いろいろ経験しました。

私がストレスからか不整脈の手術が必要となり、夫を先に頼んでいた病院へ短期入院させて、私の手術という次第に。私の手術は成功しました。夫は3日後に退院の予定が、急変してそのまま亡くなりました。入院中は食事も少量でしたが食べ、トイレも最後までおむつを使わず自力で行けたので、とても信じられませんでした。

唯一、入院前に夫の好物の筍を、出始めから破竹の終わりまで毎日のように食べさせてあげられたのが救いでした。ステージⅠで見つけても5年半しか生きることが出来ず、夫の寿命だったのかなとつくづく思います。



### 寄稿

## ときどき [横浜だより]

会員 清水 潤

私の街、横浜市旭区二俣川が、いま注目されています。

2019年11月、相模鉄道の新路線完成で相鉄・JR相互乗り入れがスタートしました。これまで横浜駅経由で3本の乗換で到着した東京新宿駅も一本です。これを見越して前から二俣川駅周辺には、新駅ビル、直結の高層マンション、広場、街並の見直し、と生活環境は大変化となりました。

明治22年に二俣川村と認定、大正末期に相鉄開業、私が引越して来た昭和40年頃は街の周辺は自然の丘陵地帯でしたが、今や人口25万の旭区の中心です。

さて、新駅ビルは複合ビルで1Fから5Fまではショッピング、ファッション、銀行、レストラン街で溢れ、7F、8F、は医療センター、9F~11Fはオフィス街です。そして6Fに皆様にお伝えしたい「二俣川地域ケアプラザ」があります。

横浜市は「ケアプラザ」と呼称する単位で介護、福祉、健康、高齢者生活支援等を総合的に扱い、これを統括するのが地域包括支援

センターです。旭区のケアプラザは13カ所で「二俣川地域ケアプラザ」は2018年5月、駅ビル完成と同時に新設されました。先日ここを訪れ、活動を見てまいりました。

施設全フロアは800㎡ほどあり、事務室、多目的ホール、地域ケアルーム、調理室などを備えた立派な施設で、所長以下、事務、居宅支援事業、交流事業などスタッフは約20名でした。特徴は活動事業の会員が他地域のケアプラザも含め、健康体操、高齢者昼食会、障害者レクリエーション・・・、30以上もあり、二つある多目的ホールの予約が取れないほど活発とのことでした。旭区に13あるケアプラザは附帯事業も居宅支援、デイサービス、特養など様々で、各地域の相互乗り入れも自由、との事でした。

最後に、相鉄は来春に東急東横線との相互乗り入れもスタートします。ますます便利になり、人の交流がどんな地域を創造するのか、この歳になっても楽しみです。





## 茶源郷「和東」へバスツアー

第118回  
研修  
報告

## 特養わらく見学と周辺観光

日時：4月16日（土）  
行き先：京都府相楽郡和東町  
参加者：18名



## ●ついに実現！3年ぶりの施設見学

かかわる会では、これまで研修の一環として年に一度、施設見学に出かけていましたが、この2年間はコロナ感染症のせいで断念しています。

今年も無理では？と心配する声もありましたが、「施設に入れなかったら、外でお話を聞けばいいじゃない」という提案があり、それなら「運営も周囲の環境もバッチリの和東へ行こう」ということになって、3年ぶりの施設見学が実現しました。

## ●マイクロバスのミニ講座！

京都駅八条口を9時半に出発。会員18人を乗せたマイクロバスは第二京阪を一路和東へ向かいます。ずっと自粛生活が続いていたこともあって、久しぶりのお出掛けに皆さんニコニコされています。

出発して少し落ち着いた頃、参加者のひとりである奈倉さんが「ちょっとお話ししていいですか」とバスの後ろの席から声をあげられました。奈倉さんは老年科のお医者さんで、かかわる会の研修でも何度か講演をお願いしています。

何が始まるのかとみんなが耳をそばだてる中、奈倉さんはユーモアを交えながら、老いとのかきあい方について次のようなお話をされました。



「老いは病気と違って治療や回復というのは望めません。抗うことはできず、徐々に衰えて行くのは仕方がないのです。

しかし、最近、歳をとってからも新しい能力は開発できることがわかってきました。ですから、これから大事なことは“再開発”ということになります。新しい身体と新しい心を開発して百歳まで元気に生きましょう」。

なんだか希望のもてる話で、みんな目を輝かせて聞いています。すかさず「どうすれば再開発で

きるんですか？」と質問が出ました。奈倉さん曰く、再開発には…

- ①好奇心を持って新しいことにチャレンジして行くこと、
- ②億劫がらずに出かけること、
- ③コミュニケーションの機会も大切、ということでした。

なんのことはない、このバスツアーこそ「再開発」なんだと気づいて、ちょっと得した気分です。

## ●特別養護老人ホームわらく

予定より少し早く、11時前に「わらく」に到着しました。「わらく」は旧中和東小学校の跡地に平成17年につくられた総合介護施設で、1階にデイサービスセンター、ショートステイ、2階には特別養護老人ホームがあり、居宅介護支援事業所も併設しています。

施設見学はコロナ対策でむずかしいということなので、中庭のゲートボール場にブルーシートを敷いてもらい、施設長の稲塚功さんからお話を伺いました。さながら青空教室、背後に茶畑が広がっています。



まずは和東町の話から。人口3700人、高齢化率48%と高齢化の進む過疎の町ですが、いいところ探しをしてみると、茶産業や豊かな自然環境があり、近隣地域の最新技術も吸収できる好立地、日本の高齢化を先取りするモデルケースになるような取り組みをしていきたいとのことでした。

その後、話は施設の話になるのかと思いきや、和東町の魅力の話、町おこしの話、稲塚さんの結婚式の話からハワイへの新婚旅行の話になって、あれ、この話はどこに着地するのかと不安になっ

た時、話は急転直下、稲塚さんが新婚旅行の帰りの飛行機で9時間かけて考えたという人生設計が披露されます。

手ぐわ1本で山を切り拓き、この和束の礎となる茶畑を作ってきたお年寄りたち。彼らの思いや生きがいを引き出し、大切にしながら、最後まで後悔なく生きられる施設、生きられる町を作っていきたい。それが稲塚さんのライフワークでした。

ともすれば私たちは、介護を施設や制度、サービスといった狭い範囲で考えがちですが、稲塚さんの話を聞いて、介護が時間軸の広がりをもつ、コミュニティづくりの大切な要素であることに改めて気づかされたのでした。

### ●茶農家見学 ～茶摘みは夫婦円満で～

「わらく」から見える茶畑は、実は稲塚さんの奥さんのご実家だそうで、予定外の見学に寄せてもらうことになりました。

茶摘みのピークは5月～7月で、連日朝から深夜まで続く重労働。茶摘みの時期は一家総出の作業なので「わらく」のショートステイは満杯にな

るそうです。

今は茶刈機で摘むので以前より作業は楽になったようですが、機械を持つ二人の呼吸が合わないというまく刈れません。この時期、夫婦喧嘩は厳禁とのことでした。

### ●青もみじの美しい一休寺

「わらく」を後にして、一休さんのお寺として名高い酬恩庵に向かいました。

美しい方丈庭園を眺めながら、ご住職にお寺の解説をしてもらったり、お抹茶をいただいたり、素敵な時間を持つことができました。



16時45分、バスは無事に八条口に到着。晴天にも恵まれ、充実のプログラムに身も心も満たされた1日でした。

次回もお楽しみに。 (正木隆之 記)

## コミュニティカフェからつくる 多世代の支え合い

立場や世代の異なる多様な人たちが関わる「まちのつどいの場」の試み

### 第119回 研究会 案内

日時：6月18日(土) 13:30~16:30

会場：ひと・まち交流館 京都 3階第4会議室

講師：片桐直哉氏(一般社団法人くじら雲理事長、京都市議、当会会員)

参加費：会員300円 一般500円

<プロフィール>1978年生。立命館大学大学院政策科学研究科修了。2010年、新大宮商店街に活動拠点として「新大宮みんなの基地」を創設。多様なコミュニケーションを生み出す場づくりに取り組んでいる。2011年から京都市会議員(3期目)。大学時代は能楽の稽古に明け暮れた。

## 京都市地域包括支援センター一実態調査・中間発表会

調査からみえたもの、現状、課題、現場の生の声

### 第120回 研究会 案内

日時：7月16日(土) 13:30~16:30

会場：ひと・まち交流館 京都 2階第1・2会議室

発表者：プロジェクトチーム

1. 調査の経過
2. 中間発表(集計結果概要)
3. 聞き取り訪問調査に参加して 調査員からの報告



## コロナ禍に負けないで生きたい

コロナ禍のため、演奏会をもつこともなかなか難しい中、今年米寿を迎える盲導犬（宏さん）の誕生日にライトハウスで「梶寿美子のわがままコンサートⅡ」を開催しましたがおかげさまで、かかわる会の会員さんも多く参加していただき、演奏者一同も、今までの大きな会場での演奏会以上に感動した様子でした。

残念だったことは、中途失明で現在は「ライトハウス朱雀」の中にある養護老人ホームに入居しているSさんが、何としても演奏に参加したいと願って、毎日私と電話を通じてレッスンしたのですが結局、施設からの外出許可が下りませんでした。彼女はもちろん、仲間たちの落胆は大きかったものです。

Sさんにとって、小さな会場であっても仲間と合奏する姿を見ていただき耳を傾けてもらえることがどれほど大きな生き甲斐であるか、私には痛いほどわかるのです。自分のことは何としても自分で決めたいものです。

さて、コロナ禍が大きく変化する見通しはありませんが、8月6日（広島に原爆が投下された日）にブルーブックカフェ（麩屋町

通御池上る）というお店でライブを開催します。88歳にしては比較的元気で過去のことでなく未来のことを考えていてくれる宏さんには是非、今生きている実感の中から正直な気持ちを語ってほしいと注文をつけております。

先般、かかわる会の研修会で和束町へのツアーに参加しました。和束の茶畑の景色は見えないものの、介護施設「わらく」の若い施設長さんによる前向きの話や、かかわる会の

皆さんとのふれあいは心温まるものでした。コロナ禍のため、人間同士のきずなを感じる機会が少なくなり、視覚障害をもつ私などとくに人と人の間に距離を取ることの淋しさを痛感しているものですから、

この研修会はとても嬉しい一日でした。

8月6日の催しの司会は正木隆之さんをお願いします。正木さんとの出会いは、33年前のこと。今は場所も変わっていますが、当時中央卸売市場の駐車場の一郭にある3階建ての下京勤労青少年ホーム（今は下京青少年活動センター）。京都市がはじめて視覚障害者が講師をする教室をつくった場所でした。



地域包括支援センターの聞き取り調査に行ってきた。その前にアンケート調査の回答をしていたら、調査所での時期聞き取り調査はできないとの回答があった。ところが電話しました。コロナ禍が落ち着いてきたせいでしょうかと聞き取りの時間を取っていただけるところが増えまして、聞き取りの調査は実際に現場の声を聞くことができている。さらに新たな展望を開くことができたのも、お会いして理解を深めたからこそと思いました。

(K・T)

### 編集後記

### 会員募集！



詳しくは上記のQRコードからどうぞ

### 新入会員紹介

5月入会

森本 孝好(たかこ)さん

久田 由美さん

大島 仁(ひとし)さん